



山本よしかず県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

八街市で車にはねられ児童5人死傷

悲惨な事故、再発許さず

スクールバスで安全通学を

八街市選出の山本義一県議は、9月定例県議会で登壇し、一般質問を行いました。トラックに下校途中の児童がはねられ、5人が死傷するといったましい事故が地元八街市で発生しましたが、山本県議は「今回のような悲惨な事故は二度と起こしてはならない」として、質問を交通安全に絞り、熊谷俊人知事や県警本部長らに交通事故撲滅への取り組みを質問しました。子どもたちにとって、安全であるはずの通学路において発生したものであり、あってはならない事故」と言う山本議員は、登下校の際に交通事故に遭わないために、スクールバスの導入を進めるよう県執行部に提言しました。

9月定例県議会一般質問



県内の交通安全施策について質問する山本義一県議

山本議員 児童生徒の登下校における交通事故の発生状況はどうか。
教育長 県内小中学校及び高等学校における児童生徒の登下校中の交通事故については、本年1月から8月までの死傷者数が、小学生74名、中学生78名、高校生230名となっています。
 令和2年は、新型コロナウイルス感染症による一斉休校があったため、令和元年の同時期と比較すると、全ての学校種において、死傷者数が減少しており、具体的には小学生で11名減、中学生で14名減、高校生で38名減となっています。

公文書入国に支援要望

山本議員 子どもたちにとって通学路は常に安全な場所であらなければならない。今回の八街市の事故は残念ながら子どもたちがその通学路で下校中に被害に遭った。
 残念ながら、交通事故はなかなか無くならない。今回の事故のように、ルールを守って歩いていたにもかかわらず、被害に遭い悲しい思いをしている児童生徒がいるのも事実。子どもたちが

警察本部長 令和3年8月末までの通学路における取締り件数は7万5985件で、取締り全体の約4割を占めるところであり、主な違反は「一時不停止」「通行禁止違反」「歩行者等妨害等違反」となっています。
県警では、今回のような痛ましい事故を二度と発生させないという強い意志のもと、通学路の合同点検結果を踏まえて、通学路の安全を確保するために必要な交通規制を確実に実施した上で、登下校時間帯に重点をおき、今後配備が拡充される可搬式オービスを最大

通学路での取締り 登下校時間に強化

山本議員 通学路における交通取締りの実施状況と今後の取り組み方針はどうか。
警察本部長 令和3年8月末までの通学路における取締り件数は7万5985件を占めるところであり、主な違反は「一時不停止」「通行禁止違反」「歩行者等妨害等違反」となっています。
県警では、今回のような痛ましい事故を二度と発生させないという強い意志のもと、通学路の合同点検結果を踏まえて、通学路の安全を確保するために必要な交通規制を確実に実施した上で、登下校時間帯に重点をおき、今後配備が拡充される可搬式オービスを最大

交通安全推進隊周知
通学路見守り人材確保
山本議員 通学路の見守りに関して、人材確保などにどのように取り組んでいるのか。
教育長 県教育委員会では、登下校時の見守りなどに協力している「交通安全推進隊」について、広く保護者や地域住民への一層の周知を図るなど、通学路の安全確保のための人材確保に努めてまいります。

要望 議員 山本 今後、各地域の状況に応じて、スクールバスの導入が進むよう、県として、国に対して、制度の整備や財政的支援を強く求めてほしい。
 また、県としても、スクールバスの導入に積極的に取り組み、子供たちの通学の安全を確保し、二度と悲惨な事故が起きないよう支援することを要望する。

八街市では、事故が起きてしまった朝陽小学校及び、遠距離を自転車通学する児童のいる二州小学校において、通学路の安全確保のため、スクールバスの運行を実施することになった。
 そこでうかがうが、事故防止のためにも、スクールバスの導入を進めるべきと思うがどうか。
教育長 登下校時にスクールバスを導入することは

●千葉県や八街市のご意見、ご要望をお聞かせください
 〒289-1116 八街市中央20-11
山本よしかず 県議 TEL.043(440)7070
 事務所 FAX.043(440)7030

「しない、させない、許さない」を合言葉に

飲酒運転根絶へ啓発

県の施策に対して要望する
山本県議

山本議員 本県では、飲酒運転事故件数は近年、全国ワースト上位で推移しており、飲酒運転の根絶は重

要な課題となっている。八街市での事故についても、運転手は勤務先に戻る途中に飲酒し事故を起こしたと

のことだ。このような飲酒運転による痛ましい事故は、これまでたびたび発生し、

罰則も段階的に強化されてきた。しかしながら、またしてもこのような事故が発生してしまつた。飲酒運転事故を減らすためには、自分は大丈夫と過信し、飲酒運転を行う人に向けた更なる啓発を行う必要がある。そこがどうかうが

地域住民とも連携

事業所訪問、協力を要請

再質問 山本議員 飲酒運転の根絶に向けて、地域住民等と連携して事業所等に協力依頼することだが、どのような取り組みか。

環境生活部長 現在、各警察署や地元企業、交通安全関係団体等で組織している「飲酒運転根絶協議会」に、新たにPTA、自治会などの地域住民を加え、同協議会を中心に、トラック



等の一斉点検の結果を受け、県管理道路の交通安全対策にどのように取り組んでいくのか。

県土整備部長 本年6月に発生した八街市の交通事故を受けた、通学路の緊急一斉点検で、道路管理者による安全対策を行う必要性が確認されています。県としては、ガードレールや路面のカラー舗装の設置など、速やかに実施できる対策について、早急に着手し、年度内の完了に向け、取り組んでまいります。

「八街警察署」の実現を

効果的な取締りが必要

山本議員 私の住む、八街市においては佐倉警察署八街幹部交番による犯罪抑止活動を展開していただいている。お蔭様で刑法犯認知件数は年々減少しているが、市民の安心・安全を高め、住みよい街づくりを推進していくためには、更なる警察力の強化が必要不可欠であると考えられることから、八街幹部交番の八街警察署への昇格を要望する。

山本議員 平成18年8月に福岡市で起きた飲酒運転による死亡事故を受け、道路交通法が改正され飲酒運転が厳罰化されたが、厳罰化効果が継続しないことも事実。毎日のように、飲酒運転で事故を起こし逮捕されるという記事が新聞に載っている。

山本議員 被害者支援に

止効果を望むことはできるが、やはり日々の警察の取締りによるところが大きいと思うので、飲酒運転の根絶に向けて、時間や場所など飲酒運転の実態をよく分析していただき、効果的な取締りを実施していただくように要望する。

事故被害者へ支援を

山本議員 被害者支援に

た児童のご遺族の方々、また被害に遭われた児童のご心痛は計り知れない。発生してしまつた事故に対して、被害者の方々が、少しでも平穏な生活に戻れるよう、支援を行つていくことは、大変重要なことであると思つた。県警では、学校、行政、弁護士会や、犯罪被害者支援センター等と連携して、被害者への支援を実施していただいているとのことだが、被害者の方々へ寄り添つた支援を行うよう要望させていただきます。

危険潜む通学路3495か所

県内 緊急一斉点検で判明

山本議員 今回の事故を受け、全国で通学路の一斉点検が行われた。県内市町村においても緊急一斉点検が行われ、3495か所で危険性があると報告された。そこがどうかう

が、緊急一斉点検の結果を受け、県管理道路の交通安全対策にどのように取り組んでいくのか。

県土整備部長 本年6月に発生した八街市の交通事故を受けた、通学路の緊急一斉点検で、道路管理者による安全対策を行う必要性が確認されています。県としては、ガードレールや路面のカラー舗装の設置など、速やかに実施できる対策について、早急に着手し、年度内の完了に向け、取り組んでまいります。

幅員狭小などで速度抑制

山本議員 通学路や生活道路における交通安全対策には、区域内全体の速度抑制などが図られるゾーン30が効果的だと聞いている。さらに先日は、道路の一部を降起させたハンパや、道路の幅員を狭めた狭さくなどの物理的デバイスを合わせたゾーン30プラスが始まった。

これまでも、物理的デバイスの整備が進まなかつた状況に鑑み、本年8月、国土交通省及び警察庁の連名通知により、ゾーン30プラスとして、物理的デバイスの整備推進が、より明確に位置づけられたことから、県警としては、今後新たに整備する場合は、原則としてゾーン30プラスとなるよう、地域にお住まいの方々や道路管理者等と連携を図っていく方針であります。

飲酒運転の根絶に向けて、県はどのような啓発に取り組んでいくのか。

回交通安全運動等を通じて啓発をしてみました。本年6月の八街市での事故を受け、緊急にラジオCMを実施し、飲酒運転の危険性を訴えたほか、新たに、地域住民等と連携して事業所等に直接協力を依頼したり、インターネットの検索画面を活用して啓発動画に誘導する等、様々な方法を

取り入れることとしています。また、今月、有識者や関係団体を交えて対策等を検討した結果の報告書をまとめたところであり、今後、その内容も踏まえ、世代に応じた安全教育の推進や情報発信等、飲酒運転の根絶に向けたより一層の啓発に取り組んでまいります。